

Process of Social Acceptance of Science and Technology

1)若狭湾エネ研

○岡田修身¹⁾ 大西輝明^{1),2)} 辻本 忠^{1),3)}

2)京大院エネ科 3)電子科学研

Okada Osami, Ohnishi Teruaki, Tsujimoto Tadashi

はじめに 現代社会にはさまざまな科学技術の成果が、商品の形や、社会の大型インフラストラクチャなどの形で入ってくる。人々が原子力発電に抱いている認識と受容の機構を、原子力発電および高速増殖炉に加えて、火力発電、航空機、臓器移植、食品保存料・保存剤、遺伝子組替食品、医療用レントゲン検査、および農薬や殺虫剤などの若い技術を対象として、アンケート調査によって明らかにする。

キーワード：科学技術受容、社会調査、原子力発電立地

調査方法 調査対象は原子力発電所立地地域である、福井県敦賀市と美浜町を中心とした嶺南地域と、福井市を中心とした嶺北地域住民で、それぞれ500人、計1000人を、男女および20代から10歳きざみ5年代からサンプリングを行って、調査員訪問留置法で調査した。設問に対して0、 ± 1 、 ± 2 、 ± 3 の7段階で回答を求め、それをスコアとした。上記9つの技術全ての評価回答を求めると大規模になるので、3項目ずつ、3分の1の人数に対する調査とした。調査時期は平成11年11-12月であった。

結果と考察 技術導入への態度、運営者や監督官庁の技術力と導入の関係などの質問への回答は、属性によって大きな差はなく、地域、学歴による回答傾向もスコアの差は0.2ポイント位で大きな差はない。科学技術開発を法規制する考えについては、高学歴の大学/院の層のみはこの考え方を強く否定するものが多い。男女には傾向に大きな差は無いが、男性が新技術導入にやや熱心な傾向が見え、女性の回答は中立的な傾向がある。年齢別に見ると、60歳代で他と比べて、導入について積極的の回答が目立つ。

有用性と受容 図1は有用性の認識と受容の関係をしめす。原子力発電の評価の特長は、社会の役に立つが、一般社会では受け入れられないとの判断評価である。航空機とX線が有用性、受容の両面とも高い評価を得ており、高速増殖炉と遺伝子組換食品は低い受容評価を受けていて、有用性についても高い評価を得ていない。原子力発電と臓器移植は、高い有用性を認められたいながら、受容性の評価が比較的低い。これら、特異な4つの技術が全体の中で比較的若い技術である事も留意する必要がある。

結論 新技術導入という視点について、地域や属性に驚く程大きな差異は認められなかった。十分に認識し得るメリットがあって、それが個人の楽しみに近いもの程、そして代替技術の無いものは早晚受容されると思われるが、このような認識が浸透するには、数十年単位で時間がかかってもおかしくない。

